

今年もあと40日となった日に読んだ本があります。「ママがいい！」(松居和著・グッドブックス)のタイトルは、保育施設に預けられた子どもが「ママと一緒にいい！」と泣く時の言葉だそうです。著者は、11時間保育を標準とし、さらに「預かる」方へ加速する現在の保育政策が、「母子分離」とひいては欧米ですでに起こっている「家庭崩壊」につながると警鐘を鳴らしています。内容すべてに賛同するわけではありませんが、常日頃「保育園がこんなこと言っているのか」と迷いつつも「できるだけ朝夕と週末はお子さんをご一緒にいらしてくださいね」と頼んでいる身としては、さくらが半世紀の間守ってきた「親子の温かな絆をつなぐ保育」をより一層大事に育てようと思った次第です。朝のお祈りでは、ご先祖様から始まって家族・親族全員に感謝し、お昼ご飯では「お父様お母様ありがとうございます、いただきます」と手を合わせ、常に延々とつながる血脈の中で自分が「生かされ、守られている」ことを意識し、感謝する。こうした幼少期の習慣が「信念」となって、長い人生で自分を守る「盾」となると信じています。そして何よりも「愛し子をその言葉通りに愛しんで」子どもが寂しくならないよう、毎日一生懸命にお仕事その他を調節して送り迎えをして下さる皆さまに、心からの敬意と感謝を捧げて今年の締めくくりとさせていただきます。1年間本当にありがとうございました。